第２回富山市スマートシティ推進プラットフォーム
運営委員会　議事要旨

日時：令和６年３月１４日（木）１３時
場所：富山国際会議場　２０５会議室
出席者
【富山市スマートシティ推進プラットフォーム 運営委員】
森本会長（座長）、下山委員、田中委員、豊岡委員
【富山市】
政策監、企画管理部次長、スマートシティ推進課長

欠席者
【富山市スマートシティ推進プラットフォーム 運営委員】
堀田副会長、品川委員、甲田委員

会議次第・議事要旨

１　開会

２　藤井市長挨拶

３　議事

(1) 事務局説明

スマートシティ推進課 越村課長から、富山市スマートシティ推進プラットフォームの活動状況及びワンストップ窓口への事業提案について説明。

欠席の堀田委員、品川委員から事前にいただいたご意見を紹介した。

(2) 意見交換

（豊岡委員）

ワンストップ窓口へはいくつかの事業提案があるが、個人情報について、例えば医療については特にその取扱いに注意する必要があるため、市で倫理審査を通す等のプロセスにより、データ漏洩を防止することが重要である。

PoC への取り組みを評価している。市からデータを提供する際には、いつの時点でどのデータを出したのか等のメタデータの把握が実証後の分析のために

も非常に重要であり、データがいつ検出されたのかトレースできる仕組み作りが必要だと考えている。
　例えば、先方にデータを出す時に特定の言葉を入力したりして誰でもメールで検索できるようにする等、システムでの対応の他、人力でできる方法等についても検討する必要がある。
（事務局）
　個人情報については、セキュリティを担保するため、事業化するものについては市のセキュリテイポリシーに遵守する形で取り扱い、契約を交わすものとなっている。
　PoC については、市に対して実証により得られたデータをフィードバックしていただく等、実証をやって終わりではなく、実装に向けて市側にノウハウやデータが蓄積されるよう配慮していきたいと考えている。

（豊岡委員）
　データについては、事業者がビジネス特許を取得する際に、将来的には公開するまでは保留とする動きがあるので、全ての情報をオープンにするのではなく、市として公開日の線引きを行うなど、ルールを設ける事が必要であると考えている。
（事務局）
　情報の取り扱いに関するルールについては、監査法人としての知見を多く有するデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社の知見等もお借りしながら、ルールについて検討していきたいと考えている。
　実証段階で全ての情報をオープンにすると、企業の知見やアイデアを模倣される恐れがあるが、市で行う事業であるため、どの範囲まで情報を公開するのかバランスを考え、発信を行う必要があると考えている。

（田中委員）
　官民連携の促進について、リビングラボの立ち上げが 7 件と順調に進んでいる印象である。今後においては、PoC を事業化に繋いでいくことが最終的なゴールであると認識している。
　官民連携の促進にあたっては、民からの事業提案と共に官からのサウンディングも重要であり、その観点で申し上げると、データの引き出しの整理・可視化が肝となる。
　市の様々な部署にどのようなデータがあるのかを整理し、可視化した上で、共創会員からデータの要望に対してスピード感をもって提供することで、より協働しやすくなると考える。

事業化にあたって、市民ニーズより「27 の取組の方向性」を汲み上げていたと思うが、もう少し解像度を上げてメッセージを発信することが重要であると考える。特に県外のＳＵ会員に対して、富山市・地域が持つ課題感を明確にイメージしていただくことが肝要である。

（事務局）

ワンストップ窓口へデータ提供の申請があったものについて、まずは部局横断のワーキンググループによりデータ提供について受け付けることとしている。

市で保有しているデータを整理し、カタログ化する作業が今後は必要であると考えているが、まずはワンストップ窓口の提案をもとにデータの棚卸を行いつつ、民のデータニーズを把握し、市職員のデータリテラシーを高めていきたい。

事業化への解像度について、Slack にて様々な交流を試みているが、事業提案の際に「27 の取り組みの方向性」のみだと具体的には何をするのか漠然としていて分かりにくいというご意見もいただいている。

市の関係課の課題共有を目的として、1/24,25 には高齢者福祉領域・防災領域などでオンラインマッチングイベントにて、市職員が各領域の問題や関連する市の事業を発表したが、今後はこういった取り組みを行いつつ、解像度を上げてファクトや課題などを発信し、会員からの提案を受けていきたいと考えている。

（下山委員）

会員企業も順調に増えイベントも着実に重ねており、事務局の尽力と市のこれまでの実績の結果であると考える。

PoC の目的について、実証実験が失敗したとしてもデータが残ることが重要であり、KPI として設定した指標の何がうまくいかなかったか、再現性がとれるデータを蓄積することで、次に活かすことが重要である。

この点を踏まえた際に、採択にはいくつか基準を設けての審査と認識しているが、実証の中でどれだけデータを提供できるか、設計段階でどれだけ KPI の質感を区切っていくか等も評価項目に入れると良いのではないかと考える。

扱うデータによっては、個人情報等は直接提供できないものや、提案者の寡占によって判断に差が出てくると思慮する。

（事務局）

PoC については今後４月より公募を行い、選定委員会にて選出していく予定。評価項目については、取得できるデータの重要性に配慮した上で進めていきたい。

（森本会長）
リビングラボから PoC、事業提案までのを流れを整理すること、PoC の失敗の許容度を決めた上で事前にデータ共有や失敗要因を共有する決まりを作ることの 2 点が必要である。
（事務局）
リビングラボでユーザー調査やニーズ把握等を行ったものについて、PoC にて事業の試行・実験を行い、そこから具体的なサービスとして解像度が高まったものが事業提案に繋がるものとなっている。
PoC の実施にあたっては、いかにデータを取得し、市側にデータを残していくのかという事についても検討していきたいと考えている。

（下山委員）
ワンストップ窓口について、共創会員のみデータ提供依頼できると設定されているが、SCRUM-T 設立から 4 か月経過した現時点で申請が無いとのことであるため、もう少し開かれた状態にしたほうが良いと考える。
オープンデータは公共財の性質を持っており、全ての方から受け付ける必要があるという考え方もあるため、窓口は絞るのではなく、全てに対応できないことを前提にしたり、要望が多く来た場合は優先順位付けをしたうえで、広く受け付けるスタンスが重要である。
また、市として対応できなくなる恐れを懸念していると思うが、静岡市や神奈川市等の他自治体でもこういったオープンデータ化のリクエストを受け付けている状況であるが、申請はそこまで多くないものと把握している。
（事務局）
共創会員はスケッチラボの法人アクティブ会員に登録し、会費が発生するものとなっているが、市のパートナーとして共創する共創会員へのインセンティブの観点もあり、データ提供依頼については共創会員に限定していた。
また、全ての会員からの申請を可とした場合、膨大な申請があった際への対処等ついても検討する必要があるが、職員のデータリテラシーを高めていく意味でも、対外的に発信していくことでスキルの醸成にも繋がると思うので、バランスを考えた上で前向きに検討したい。

（下山委員）
Slack やイベント開催で、コミュニティを広げる動きがあるが、プラットフォームを知らない場合どうやって勧誘するかの動きが重要であるため、今後はリアルなイベントについて一般公開するものを設けていく等の対応も必要であると考えている。

SU 企業に紹介したこともあるが会員までの手続きがやや煩雑である印象であった。その為、登録までの導線を整理していくことが必要である。

Slack 内の DM 利用の多さに関連して、無尽に自社広告をするケースもあるため、ルールを含めたコミュニティデザインが重要である。

（事務局）

オンラインのコミュニティツールについては、継続して Slack を利用する予定であるが、3 カ月が経過して有償利用できる期間が終了となり、過去の投稿が一部参照できないようになっていることもあるため、今後はコミュニティに属している人がどのようなスキルを有するのか等が分かるような他ツールの導入等も検討していきたいと考えている。HP の会員登録への誘導は今後改善したい。

会員登録に際し、SU 企業は創業後 10 年未満であり、登記簿登録が必要になる等、資格の確認のため手続きに必要となるものはあるが、登録までの流れについては、なるべく分かりやすくなるよう、HP の UI 等についても改善していきたいと考えている。

Slack については、利用にあたっての留意事項を定めており、営業行為等については禁止しているが、今回いただいた意見を基に、会員の質の担保という観点からも、今後の取り組みについて検討していきたいと考えている。

（森本会長）

HP のデザインの改善、プラットフォームの組織体制や方向性等の外部への発信等について検討が必要であると考える。

また、事業提案について、毎年継続していくにあたり、評価基準、優先順位の指針は早めに決めてアナウンスするべきと思慮する。最終的には地域に根付いて波及効果が生み出されることが重要である。

例えば、持続性などを加味する場合、初年度は必要金額の資金提供を行い、何年後にビジネスモデルとしてマネタイズできることや、実証により得られたデータを富山市にどのように提供できるのかを条件にする等、今後評価基準を整理していく必要がある。

（事務局）

ＨＰのデザインについては今後改善していきたい。

事業提案については、市としてのビジョンを提示したうえで、それに沿った提案を求めている。ビジョンの 3 つの重点領域のほか、市として重点施策として掲げている子育て関連の分野等についても重要であると考えている。

対外的な発信については、HP 上でビジョンを提示しているが、より分かりやすい発信についても今後検討したいと考えている。

（森本会長）
　現時点では会員数は順調に増加しており、引き続きこの形態をとらせていただきたい。HP も含めて情報公開を行い、プラットフォームの盛り上がりについて PR し、相乗効果を生み出していくことが重要である。

以上

別紙

堀田委員ご意見

・本プラットフォームにおいて官民連携・共創を促進するにあたり、もっと地元大学を活用してもらいたい。
・地元大学にも様々なシーズがあり、スタートアップをはじめとする企業がそれらを活用して事業提案へとつなげていくような産学連携にも期待したい。
・地元大学にも様々なシーズを有する研究者がおり、例えばピッチに登壇するなど、そうした産学連携につながるような場や機会を提供いただきたい。
・本プラットフォームは、基本的には市に対して事業提案をする目的で設置されたものではあるが、市と一緒に国の予算を取りに行くなど、別の連携チャンネルもあると良いのではないか。
・市が先導し、特区のもとで先進的な実証ができるような機会提供にも期待したい。

品川委員ご意見

・スマートシティは PDCA（Plan-Do-Check-Action）サイクルではなく、DCAP（Do-Check-Adjust-Plan）サイクルで考えていく必要がある。そういう観点から PoC は非常に良い枠組みである。県外スタートアップにとっても迅速に“とりあえずやってみる”的なアプローチが採れることは良い。
・PoC の具体的な要件は早めに開示し、様々なプレイヤーが手を挙げられるようにしてもらいたい。
・プラットフォームの立ち上がりとしては非常によい運営をしていると思う。県内企業や県外スタートアップの取組が促進されるように市の後押しを期待したい。
・サービスの立ち上げを後押ししていく一方、この後、市としてどういう領域のものをどう立ち上げていくのか、交通整理というか、一定の方向性の提示も必要ではないか。例えば、市としてプラットフォーマーを求めるのか、サービサーを求めるのか、その辺りの姿勢は明確化した方がよいのではないか。

別紙

甲田委員ご意見

・今回のプラットフォームでは、大企業を含むリソースや知見豊富な多くの共創会員が参加しているため、スタートアップを含むベンチャーが自力で行うPoC だけでなく、最初から大企業とのオープンイノベーションを想定して実施されることが望ましい。
・150 を超える事業者が参加している利点を活かして、単独事業者でコトを行わず、類似事業者との共創、シナジーが見込める企業間の共創などを前提にした PoC が行われれば、より大きな地域インパクトが期待される。
・ワンストップ窓口に寄せられた事業提案一覧について、提案内容の中に「その問題が富山でどの程度の課題なのか（解決されることのインパクト規模の予想）」と「提案事業者のリソースや過去実績（実現可能性の予測）」も記載されると、選定側で、優先順位をつけやすいのではないか。